



Bed and Craft

宿泊しながら、職人ともものづくりの喜びを体感する分散型ホテル

「Bed and Craft」

ベ ッ ド ア ン ド ク ラ フ ト



職人に弟子入りできる宿

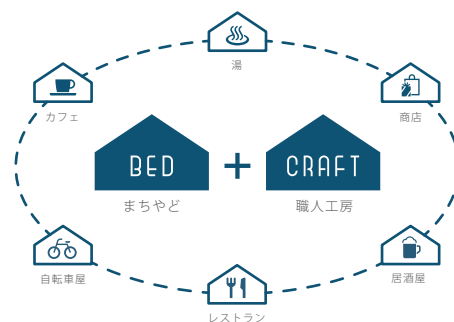
全国で類をみない「木彫刻のまち」として知られている富山県南砺市井波^{なんと いなみ}で、職人に弟子入りできる宿をコンセプトとした分散型宿泊施設 Bed and Craft は、町に点在している職人工場で直接手ほどきが受けられ、まるで**弟子入りした様な暮らしを体感**することができます。2016年6月に始まった取り組みは既に2500組以上にのぼり、その3割は海外からのゲストです。



<https://bedandcraft.com/>

B だけじゃない、C もある旅が新しい

旅への背中を後押ししてくれる宿泊の形として、「Bed and Breakfast=簡易宿泊施設」は、世界中で多くの利用者に愛用されています。Bed and Craft はそこに、体験というエッセンスを新たに加え、ここでしか味わえない旅の形をつくりました。町には歴史ある寺社仏閣や地元に愛される飲食店や喫茶店等、**地域資源と連携することでゲストにとって町全体がホテル**になります。B から C へ、進化した旅がここから始まります。



職人から手ほどきを受けるワークショップ

Bed and Craft では、旅行者が滞在中に地元の職人から工房で直接手ほどきを受けることができます。それは日本の職人たちが育んできた「工芸：クラフト」の美に直接触れることのできる機会。また同時に、**ここに暮らす職人たちにとっても今までにない出会いと交流を生み、新たな創作への意識改革につながっている**。Bed and Craft に泊まることは、次世代に繋がる職人文化を生むきっかけになると考えています。

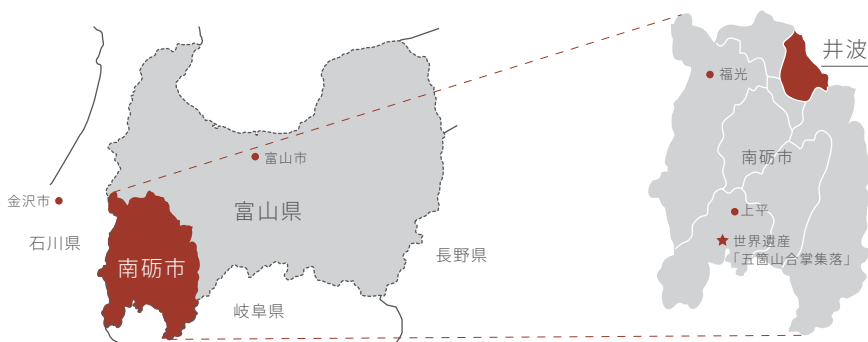


こんな出会いもありました ...

井波彫刻に従事している職人たちは、自らの作品をつくるアーティストでもあります。しかし、高校を卒業してすぐに弟子入りし独立を果たしたとしても、芸術大学を卒業していない彼らにとって作品を発表する機会には多くはありませんでした。しかし、ワークショップを通して彼らの作品への想いや造形を体感し、多くの方々が**その作家性に魅了され作品を依頼するゲストが増えました**。いまでは海外から依頼が入ったり、世界三大アート見本市である「アートバーゼル」にも招聘される等、彼らの魅力が海外から認められ始めています。

いなみ 木彫刻のまち井波

富山県南砺市井波は日本屈指の木彫刻の町として栄え、全国から多くの弟子を迎え、人口約8000人の小さな町にも関わらず、現在でも200名近い従事者が暮らしています。しかし、日本のライフスタイルの変化と共に、和室文化も衰退、主力商品でもあった欄間彫刻の売上も激減、新たな弟子を養成する体力も無くなってきています。私たちは**新たな観光のカタチで伝統工芸の再興**に取り組んでいます。



井波は、富山県南西部散居村で名高い砺波平野の南端に位置し、八乙女山の山麓に抱かれた歴史と自然あるのどかな寺町。1390年（明徳元年）、本願寺5代門主綽如上人が、この地に瑞泉寺を建立されたことに始まる。富山市内より車で30分、金沢市内より40分。

Bed and Craft の3大原則

職人を活かします

井波は彫刻師が200人を超える全国一の産業規模を誇る木彫刻産業地で、多くの伝統工芸品を生産しています。200本以上のノミや刀を駆使して仕上げられる彫刻は、国指定の伝統的工芸品に登録されています。Bed and Craftでは、旅のメインイベントになるような、職人に弟子入りできるワークショップを企画。日頃なかなか実感できない**ものづくりの醍醐味を、現地で活躍する職人たちと一緒に享受**することができます。



古民家を活かします

井波を含む、砺波平野には「アズマダチ」と呼ばれる多くの古民家が点在し、世界の集落100選にも選ばれた美しい風景の「散居村」が広がります。木材をふんだんに使った昔ながらの古民家を積極的にリノベーションし活用することで、当時建設に関わった職人から現在の職人へ、**技術を継承するきっかけ**になればと考えています。



町を活かします

北陸浄土真宗の拠点として、600有余年の歴史を誇る名刹、瑞泉寺。富山県南砺市井波は、その門前町として栄えてきました。町の中心を貫く八日町通りの両側には多くの彫刻工房が軒を連ね、あちらこちらから職人たちの振るう木槌の音が。また井波には、老舗の酒造場や蕎麦店、手作りの豆腐屋など地域から愛されるたくさんの店舗があり、そこで出会う**地域の人々の優しさやおもてなしも、井波の大きな魅力**です。



職人との関係を新たに再構築する「マイギャラリー制度」

Bed and Craft の暖簾を掲げる 6 つの宿は、それぞれ地域で活躍する作家と協働して作りあげました。宿と作家は深く結びつき、設計段階から作家の意見を取り入れた空間づくりがなされています。「宿に合わせた作品をつくるのではなく、作家に合わせた宿をつくる。」

そうすることで、宿は各作家のためだけのギャラリーとなり、自身の世界観を表現する場となるのです。



「マイギャラリー制度」の仕組み

マイギャラリー制度にはこんな工夫も ...

館内に展示されている作品。これは、作家から提供されており、宿泊者はその一部の作品を購入することができます。また、Bed and Craft では、**宿泊料の一部を担当作家に還元**しています。これにより、作家は新しい作品を制作することができ、ゲストは日々変化する空間を目にすることができるのです。Bed and Craft はマイギャラリー制度によって作家と旅人をつないでいます。

旅をサポートする小さな相棒

多言語対応 (日・英・中)

Bed and Craft には専用のアプリがあり、各宿や職人に弟子入りするワークショップの情報だけでなく、**地域住民が愛する居酒屋やカフェ等を短時間で検索でき、最短のルートを教えてくれます。**また、市内の様々な観光スポットも紹介されているので、隣町へのショートトリップも。最近では、地域住民がダウンロードし、海外のゲストとの会話を楽しむ光景が見られます。

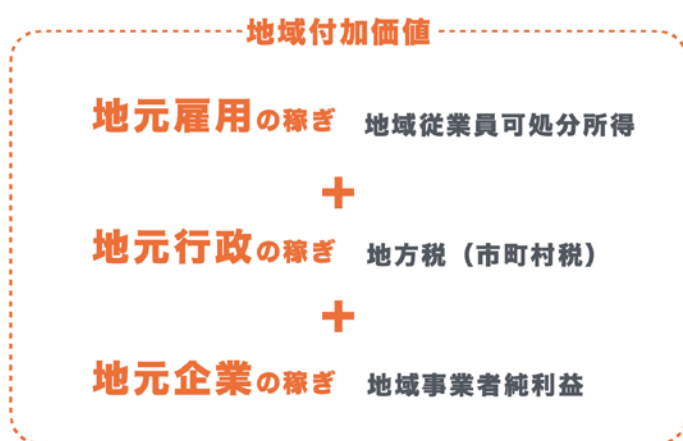
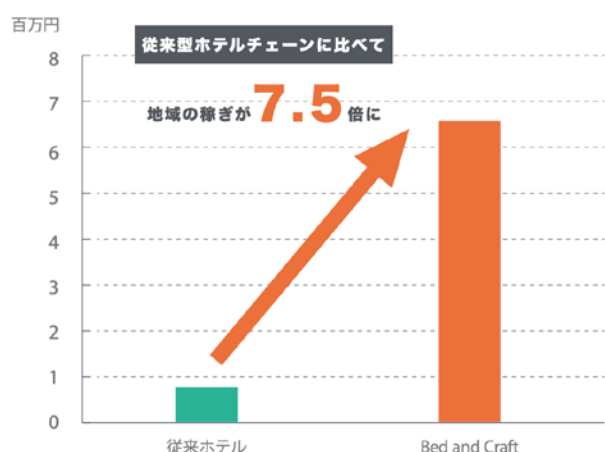


Bed and Craft は「地域の稼ぎ」を増やす

従来より一般的に用いられている「経済効果」という指標、実は地域にどれほどの利潤をもたらしているかは考慮されていません（いわゆる売上高のみで、利益が地域に落ちている指標ではない）。そこで、地域のどの程度の利潤がもたらされているかを研究している京都大学の稲垣先生が提唱する「**地域付加価値創造分析**」によると、100 室以上ある従来ホテルに比べて Bed and Craft のような地域特色を活かした小さな宿泊施設でも、**地域の稼ぎが 7.5 倍以上あるという研究結果**が出ました。これは、その土地らしい小さな商いでも十分に経済寄与できるという勇気付けられる結果となりました。

従来型ホテルチェーンと比較した地域付加価値創造分析

京都大学大学院地球環境学会 研究員 稲垣憲治氏



まちづくり団体との協業による滞在体験の高付加価値化

町全体をホテルと見立てた時、ホテルのサービススタッフはその町に暮らす住民です。その**住民の「おもてなし」の意識を改革する為には、まち自体が良くならなければいけない**、そんな想いから 2018 年にまちづくり団体・一般社団法人ジソウラボをつくりました。ジソウラボは地元の若手企業経営者で構成され、MAP プロジェクトと呼ぶ移住起業家を伴走する制度を構築。それにより、近年ではベーカリーをはじめ、コーヒー焙煎所やカフェ、クラフトビール醸造所等が移住と共にオープン。まちを訪れるゲストにとっても、弟子入りの合間に楽しむローカルの食事を楽しんでいます。**Bed and Craft がオープンした 2016 年以来、42 軒もの空き家が事業所や店舗として利活用**されました。

